私を育てた
あの時代、あの出会い
第16回

言葉少ない指導が気付く大切さを教えてくれた

大分県　佐伯市立佐伯城南中学校校長　國見義隆　KUNIMI YOSHITAKA

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で生徒を育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、國見校長が語る。

くにみ・よしたか　専門教科は保健体育科。佐伯市立鶴谷中学校、佐伯市立米水津北（現米水津）中学校、大分県教育センター、佐伯市立昭和中学校、佐伯市立本匠中学校などを経て、現職。部活動では主にバレーボール部の顧問を務めた。

自分で気付くことが自ら学ぶ出発点になる

校長となってからずっと、私は学校教育目標に「気付き実践する生徒の育成」を掲げてきました。教師は生徒に教えることは出来ます。生徒も教師から多くの知識や技能を学びます。しかし、それだけでは人間的な成長にはなかなか結び付きません。自分に足りないものや必要なことに気付いてこそ、自ら真剣に学び、真の力になると考えるからです。

気付く大切さにまさしく気付かせてくれたのは、安部一雄教頭でした。文部省（当時）の格技指導の研究指定校に柔道専門の私が赴任した時、指導を受けた先生の1人です。

当時、私は教員8年目。全国的な研究大会で発表するのはもちろん初めてでした。私は、授業で柔道をしっかりと教え、研究大会の発表では試合を見せればよいと考えていました。しかし、安部教頭は「3年間研究するのだから、他校がしたことがないような研究に取り組んではどうか」と言われたのです。悩みに悩んだ末、相撲体操からヒントを得て、校庭で行う「青空柔道」を考え出しました。校庭にマットを敷き、生徒

- 1977（昭和52）
  佐伯市立鶴谷中学校に新採で赴任。その後、同校には1990年、2006年（教頭）にも赴任
- 1984（昭和59）
  米水津（よのうず）北（現米水津）中学校に赴任。格技の研究を行う。安部一雄教頭に出会う

米水津北中学校に赴任した頃。後列左から2人目が國見先生

- 1995（平成7）
  大分県教育センターに着任。不登校の子どものカウンセリングを担当。翌年設置された佐伯市教育委員会の適応指導教室に異動し同様の取り組みを継続
- 1997（平成9）
  佐伯市立昭和中学校に赴任
- 2003（平成15）
  佐伯市立本匠中学校に教頭として赴任
- 2004（平成16）
  佐伯市立佐伯城南中学校に赴任
- 2007（平成19）
  佐伯市立蒲江翔南中学校に校長として赴任
- 2010（平成22）
  佐伯市立佐伯城南中学校に赴任

My History

「ぐいぐい引っ張るだけでなく待つことも教師の役割」

がローテーションしながら、受け身や打ち込みを行う、というようなものです。苦労しましたが、研究大会では高い評価をいただくことが出来ました。

もちろん、指導案を作成するに当たっては、安部教頭や研究主任に見ていただきました。安部教頭からは具体的な指導は一切なく、「これはどういうことか」「自分ならこうする」などのメモ程度の指摘だけでした。安部教頭は、全てを私に言うのではなく、ポイントだけで私に何を改善すべきかを気付かせようとしていたのです。

方針はしっかり伝え多くを語らず見守る

もう1つ、大きな気付きを得たのが、不登校の生徒を指導した2年間です。校長に「別の世界を見てこい。そうしたらもっと良い先生になれる」と言われ、大分県教育センターに赴任。当時は、不登校生専門の施設がなく、不登校生は教育センターに通い、教師は彼らへの対応をしながら不登校生に対する指導法を模索していました。

私も数人を担当しましたが、生徒は私の言うことを聞いてくれません。これまでの私の指導は全く通用しませんでした。私はカウンセリングを学ぶため、何冊も本を読み、文部省の講習会などに参加しました。それで分かったのは、私には人の話を聞き、相手の気持ちを考える姿勢が足りないことでした。私は教育センターでの1年間、生徒と保護者の話を300件以上聞き、このことが人の話を聞く訓練になりました。

翌年、佐伯市に出来た適応指導教室に異動になりました。適応指導教室では、生徒がやりたいと言えば、料理、釣り、粘土工作と何でも一緒に行い、生徒と触れ合うことで信頼関係を築くことに注力しました。保護者に対しても、悩みをとことん聞き、それから生徒への対応などを話し合うようにしました。

ぐいぐい引っ張り、厳しく教えるだけでなく、話を聞き、待つことも教師の大切な役割なのだと、考えられるようになりました。

本校に赴任してから、部活動の試合は出来るだけ応援に行き、学校行事や部活動、研究授業の様子などはスポーツ新聞風の学校新聞や学校のSNSでタイムリーに学内外に伝えています。発信を強化して、保護者会への参加率が高まりました。

昨年、学校教育目標を「何事にも挑戦する生徒～元気・勇気・笑顔～」に変えました。「気付き実践する」ことが出来たら、次はチャレンジしてほしいと考えたからです。生徒だけでなく、先生方に対しても同じ思いです。先生方には、前年踏襲ではなく、新しいことに挑戦し、責任は校長がとるから「失敗しなさい」と言っています。

校長になってから、若い頃、安部先生に教えられた哲学者の言葉「良い教師は説明する。優れた教師は自らやってみせる。偉大な教師は心に火をつける」を校長室に貼っています。

先生方に方針はしっかり伝えますが、安部先生を見習って決して多くは語らず、見守っています。時々こうしてほしいなと思うこともありますが、自ら気付くことこそ成長につながると信じ、生徒、そして先生方と向き合っていこうと思います。